

鹿角市の通説異説

〔99〕02大湯環状列石の謎／円筒式土器の用途

世界遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」の特徴は、円筒式土器文化圏に属していることです。

- ①ご案内のように、円筒式土器は想像よりも大型なので、鍋釜などの調理器具として用いられたとは考えにくい。
- ②また、熱効率に配慮した形状になっていません。
- ③ほとんどの円筒式土器は、長時間使用した痕跡が見当たらない。

以上、このようなことから、

- ④殯（もがり）に際し、数日間、建物に死体を安置するときに、発生する悪臭を消すために、土器の中に薬草香草を入れて囲炉裏の傍に据えて燻したものと思います。
即ち、郊外に竪穴住居を建てて殯のために、短期間居住したのでしょう。

- ⑤また及び夏季、郊外の祭場に竪穴住居を建てて天変地異除けの祈禱のために寝泊まりし、その時ツツガムシなどの病害虫（魍魎魍魎）侵入防止のために、同じく土器の中に薬草香草を入れて囲炉裏の傍に据えて燻したものと思います。

◇参照：円筒土器の熱効率

<https://twitter.com/GCZsakurada/status/1446428333223211012>

鹿角市の通説異説へ戻る

<https://twitter.com/GCZsakurada/status/1443256164158869506>